

施策評価シート(令和3年度実績評価)

施策の基本情報

政策No	0305	政策名	芸術文化の振興	施策主管課	文化財課	課長名	鈴木 直明			
政策の目指す姿	地域の歴史や文化、先人に誇りを持ち、芸術文化に親しんでいます									
施策No	04	施策名	民俗芸能の伝承	関係課名						
施策の目指す姿	民俗芸能への理解が深まり、伝承活動を活発に行っています									
現状と課題										
<p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> 市内には、ユネスコ無形文化遺産に登録された早池峰神楽をはじめとして、数多くの民俗芸能が伝承されていますが、多くの団体において少子高齢化等による後継者不足が進んでおり、伝承に苦慮しています。 民俗芸能団体からは、伝承への意識づけと練習するきっかけとなる披露の機会を増やしてほしいとの意見があります。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域の民俗芸能保存会と共に、民俗芸能を伝承する人材の確保・育成策を検討する必要があります。 民俗芸能を発表・披露する場を増やす必要があります。 										
前年度の評価の振り返り										
前年度評価時の今後の方向性										
<ul style="list-style-type: none"> 運動会や文化祭で地域の民俗芸能を体験するほか、「民俗芸能の出前授業」の実施校を増やすよう学校に働きかける。 コロナ感染拡大防止を図り、郷土芸能発表会等の公演を開催する。 活動に必要な用具の修理や新調に直接要する経費に対する補助制度を新設する。 										
反映状況										
<ul style="list-style-type: none"> 当初6校の予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響もあり、令和3年度は湯口中(上根子神楽)、大迫小(岳神楽)、新堀小(大償神楽)で「民俗芸能の出前授業」を実施し、臨場感のある踊りに直接触れることができた。 当初5公演の開催予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響もあり、「郷土芸能鑑賞会」及び「青少年芸能フェスティバル」の2公演を開催した。 活動に必要な用具の修理や新調への補助については、「花巻市指定文化財修理費補助金交付要綱」を廃止し、令和3年度に「花巻市文化財保存事業費補助金交付要綱」を新設し、無形民俗文化財の用具の修理・新調に対しても補助対象とした。 										
1 施策の目指す姿の実現に向けた主な取組										
<p>(1) 民俗芸能の伝承事業</p> <p>民俗芸能団体の活動状況の調査と要望に応じた支援</p> <ul style="list-style-type: none"> 意見交換会(高校で民俗芸能に取り組む生徒)を計画 新型コロナウイルス感染症拡大により中止 補助金制度の新設(上記「花巻市文化財保存事業費補助金交付要綱」) 国庫補助事業の団体への紹介、申請事務の補助[R3.1月新設の「地域文化財総合活用推進事業(地域の伝統行事等のための伝承事業)」] <p>民俗芸能の発表の場や伝承活動の場の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> 小中学校での民俗芸能鑑賞会の開催(3校実施) 民俗芸能公演会の開催(2公演) <p>公演会情報等の市民へのPRの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 6月開催の「花巻市郷土芸能鑑賞会」及び11月開催の「花巻市青少年フェスティバル」については、広報やホームページで市民にPRした。 										
2 成果指標										
成果指標名	成果指標設定の考え方	成果指標の測定方法	単位区分	H30	H31	R02	R03	R04	R05	
郷土芸能団体数	地域ぐるみで伝承・保存に努めることが重要であることにより、地域で実際に郷土芸能伝承や保存活動している状況を表す指標	花巻市郷土芸能保存協議会、花巻地方神楽協会、花巻市文化団体協議会の加盟団体より把握する。	団体	目標値	96.00	96.00	96.00	96.00	96.00	96.00
				実績値	96.00	96.00	96.00	96.00		
				目標値						
				実績値						
				目標値						
				実績値						

3 成果指標の達成状況

達成度	達成状況に関する背景・要因
A	<p>成果指標「郷土芸能団体数」…【達成度a】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・R3も新型コロナウイルス感染症拡大により、発表の機会がほとんどない中で、地域に伝わる郷土芸能への強い思いが団体数の維持につながっている。 ・コミュニティ会議においても、用具修理費の補助や活動費を支援するなど地域ぐるみで大切にしていこうとしている。

4 施策を構成する事務事業の検証

市民のニーズや市の関与の必要性が低下した事業、 投入コストの割に成果が低い事業、 施策への貢献度の低い事業はないか
なし
施策の目標を達成するため、さらに成果の向上を図る事業はないか
<p>(民俗芸能支援事業)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在行っている小中学生の授業での民俗芸能鑑賞会をさらにPRして、小中学校へ働きかける必要がある。 ・R3は新型コロナウイルス感染症拡大により、当初予定していた3公演が中止となったため、事務事業の成果指標が目標に達しなかった。コロナ禍が落ち着いた後には、伝承者のモチベーションを維持するため、多くの人に鑑賞してもらう公演の場の提供が必要である。 ・用具等の修理や新調への費用面からの支援が引き続き必要である。
新たに取り組むべき事業はないか
<ul style="list-style-type: none"> ・民俗芸能経験者、希望者と郷土芸能保存会とのマッチング

5 施策の総合的な評価

課題
<ul style="list-style-type: none"> ・子供たちに民俗芸能への興味や関心をもってもらうため、学校行事や授業の一環として、児童生徒が直接触れる機会を増やす必要がある。 ・発表の機会を増やすことで伝承者はそれに向けて練習を重ねることから、多くの人に鑑賞してもらう機会を増やす必要がある。 ・用具や衣装にかかる費用が負担となっている。 ・新規加入者(後継者)を増やす取り組みが必要である。
今後の方向性
<ul style="list-style-type: none"> ・多くの小中学生に興味をもってもらうため、さらに小中学校への民俗芸能鑑賞会のPRに努める必要がある。 ・民俗芸能団体へ発表機会を提供し、民俗芸能の普及・保存伝承・後継者育成を図るため郷土芸能鑑賞会等を開催する。 ・活動に必要な用具の修理や新調に要する経費への補助制度の周知に努めていく。

施策を構成する事務事業一覧

No	事務事業名	担当課	施策への貢献度		
			対象	意図	成果
	事業内容(活動実績)		直結度		
010	民俗芸能伝承支援事業費	文化財	一致	直結	C
	小中学校での民俗芸能鑑賞会(3校)、学校で民俗芸能の伝承に取り組む高校生(4校×2名)との意見交換会(コロナにより中止)				